



奈良町にぎわい通信

Vol.35

二〇一八・啓蟄／春分

発行
奈良町
にぎわいの家



奈良町にぎわいの家 2月のイベントから



二十四節気講座～春
春の俳句を紹介する
倉橋みどり先生。



个当館スタッフによる
絵手紙&墨絵遊び



●二つのかまど企画。
お米マイスターのお話とご飯の美味しい炊き方講座
&
当館恒例、かまど体験！寒い中にかまどの煙が。



お米マイスターのお話。



こちらいつものかまど風景。



奈良町にぎわいの家関連イベント「奈良町ファンタジー」の様子 (於...ならまちセンター)

①奈良町居住、関係者による自作エッセイを披露。 ②朗読劇「町家よ語れ」 出演者が「町家」になって、町の様子を語る物語。



10歳から71歳の
一般参加者が熱演！

③オリジナルソング「奈良町ふぁんたじい」の披露。



嶋田純子さんによる歌。最後は参加者みんなで。



町家の魅力を発信！～奈良町家シンポジウム「奈良町家の魅力と未来」を開催

日本を代表する歴史都市「奈良町」。この地で暮らし継がれ、今なお豊かな文化を感じさせてくれる「奈良町家」の魅力とその保存・活用を考えるシンポジウムを、奈良町にぎわいの家管理共同体の主催で平成30年2月22日に奈良市ならまちセンターで開催しました。

シンポジウムでは、「奈良町に住んでいる方や住みたいと思っている人には、町家のくらしを楽しんで欲しい。」「町家には五感を働かせながら暮らせる。」「町家には、くらしの中で培われた美意識や価値観が反映されている。」「新しい町家ができ、新旧の町家が混在する奈良町になったら。」「町家は改修によってきれいに快適に住める。」「奈良町家もブランド性を持つ言葉になって欲しい」「奈良町家で暮らす喜びをいかに伝えるのか。それが町家を次世代につなぐ鍵となるのでは。」など、奈良町家への思いがパネラー、コメンテーターから寄せられました。これを機会に更に奈良町家の保存・継承に向けた機運が高まってくれればと思います。

なお、パネラーは、渡邊有佳子(奈良町在住、アル建築設計代表)、畠山梨絵(奈良市奈良町にぎわい課)、飯田むつみ(奈良町家居住)。コメンテーターは、増井正哉(京都大学大学院教授)。コーディネーターは、藤野正文(当共同体事務局長)が務めました。(敬称略)



奈良町家
NARA MACHIYA



当館の説明プレートができました。

入り口近くに掲示しています。建物のプロフィールや特徴をわかりやすく説明。これを読んで見学すれば、より楽しめますよ！他の奈良町家にもこうした説明板がある家も。注目しながら散策ください。

ふくふくと啓蟄の
畑耕され
はじめて土踏む
をさなごの足

オリジナル節氣短歌
喜多隆子(歌人)
節氣マーク・
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

啓蟄のころ、
やわらかに
耕された畑に、
歩けるようになった
子どもが初めて土を
踏む。いのちの感触。

事務局だより

2018
春分号

春の行事から

事務局長 藤野正文

立春が過ぎて、梅の花が咲き、桜の花が開き始める時期になりました。二十四節気では、春分（3月21日）と清明（4月5日）の頃。時候の挨拶では、「おぼろ月夜の美しい頃」とか。「花冷えの頃」「春爛漫の折から」。まさに「万物が若返り、清々しく明るく美しい季節」（清明）です。

春分の前夜3日間を合わせて七日間が「彼岸」で、仏教の各派では「彼岸会」が行われ、お墓参りをする方がたくさんおられます。「彼岸」は西にあって仏教では「悟りの世界」といわれていますね。

そういえば、春分の日には、「ぼた餅」を食べますね。「ぼた餅」に使われている小豆の赤い色は災難から身を守り、邪気をはらう信仰と先祖の供養が結びついて江戸時代に庶民の間で始まった習慣といわれていますが、春に咲く牡丹に見立てて「ぼた餅」。同じ食べ物でも秋分に食べるのは、秋に咲く萩に見立てて「おはぎ」というとか日本人が季節をとっても大切にしていることがわかる話ですね。奈良町から生駒山に沈む夕日を眺めながら、彼岸を思い、気ぜわしい現在の世界を少し忘れて、春の日差し縁側でゆったりと

「ぼた餅」を食べるのもいいかもしれません。

また、清明の頃は、江戸時代から「目には青葉 山ほととぎす 初鰹」、「初鰹は女房子供を質に置いてでも食え」といわれているようです。初物には他の食べ物にはない生気がみなぎっており、食べれば新たな生命力を得られるようです。いち早く季節のものになる日本の食文化は、季節を感じながら、季節の味をいただくことを大切に、季節と共に生き、季節を愛でてきた日本人のくらしが感じられます。

赤膚焼のお雛様が当館に！



一刀彫のお雛様？いえいえ、なんと赤膚焼！大西楽斎作。珍しいのと、お貸しいただきました。藤や桜の艶やかな模様がステキです。にぎわいの雛祭りに華やぎを有り難うございました。

気軽に抹茶体験を

県内の生徒さんたちが、奈良町巡り。その始まりが当館での抹茶体験でした。家庭科の授業でも教わったとのこと。当館スタッフのお点前とお話で、皆さん自分なりに点てて味わっていました。その後、南観光所で昼食、からくりおもちゃ館を見学と聞きました。奈良町の施設をこんな風に巡ってもらえるのは、嬉しいことです。

お菓子は
ひなあられが
好評でした。



うまく
点てられたかな？



寄付いただいた
赤膚焼の茶器で。



奈良町にぎわい通信vol.35

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書：逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



啓蟄

3/6~20



春分

3/21~4/4

さくら咲くゆふべの空の
みづいろのくらくるまで
人をおもへり

前登志夫(歌人)